



「危険物施設に係る津波・浸水対策検討会」の発足

危険物保安室

1 背景

屋外タンク貯蔵所に代表される大規模危険物施設は、沿岸部に集中して設置されており、今世紀前半にも発生する可能性が高いとされている南海トラフを震源とする大地震、千島海溝・日本海溝を震源とする大地震などに伴って発生する津波などにより、これらの危険物施設に被害が生じるおそれが懸念されます。2004年インドネシア・スマトラ島沖地震の際のインド洋大津波では、スマトラ島バンダアチェ市近郊の石油類貯蔵タンクが壊滅的に変形したり、距離数百mにわたって漂流したりする被害が発生しています。

こうしたことから、消防庁では、大地震に伴う津波・浸水により、我が国の大規模危険物施設に発生しうる被害を予測する手法を確立するとともに、有効な被害軽減対策を立案することを目的とした調査検討を平成18年度から開始しており、昨年度における成果を「危険物施設に係る津波・浸水対策調査検討報告書」(平成19年3月・消防庁危険物保安室)に取りまとめたところです。

今年度は、昨年度における調査検討結果を踏まえ、被害予測内容のなお一層の充実を図ることなどを目的として標記の検討会を発足することとしました。

過去の津波・浸水による危険物施設被害事例



タンクの潰滅

●2004年
スマトラ島沖地震



タンクの漂流

●1964年
新潟地震



市街地に重油が流入

●1959年 伊勢湾台風



タンクが4km漂流

2 検討会について

(1) 検討事項

- ・防油堤、屋外貯蔵タンクの津波被害予測に関する事項（特にタンク側板の座屈などタンクの構造的被害とタンクの漂流に関する予測手法の検討）
- ・危険物施設における有効な津波被害軽減対策に関する事項

(2) 今後の予定

下記のスケジュールで検討会を開催し、報告書を取りまとめる予定です。

- ・第1回 平成19年9月5日開催
- ・第2回 平成19年11月下旬開催予定
- ・第3回 平成20年2月上旬開催予定

(3) 検討会の構成委員

危険物施設に係る津波・浸水対策検討会委員

(順不同・敬称略)

亀井 浅道	委員長・横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター教授
今村 文彦	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授
清宮 理	早稲田大学理工学部社会環境工学科教授
座間 信作	消防庁消防大学校 消防研究センター地震等災害研究室長
木原 正則	消防庁危険物保安室長
阿部 一哉	岩手県総務部総合防災室防災消防担当課長
木本 雅仁	三重県防災危機管理部コンビナート防災特命監
半田 和雄	和歌山県総務部危機管理局消防保安課長
岡林美津夫	高知県危機管理部消防政策課長
牧野 正博	釧路市消防本部予防課長
中本 敦也	仙台市消防局警防部予防課長
伊藤 正行	川崎市消防局予防部危険物課長
市川 芳正	静岡市消防防災局予防部予防課長
内田 喜訓	危険物保安技術協会タンク審査部長
横山 健一	石油連盟技術環境安全専門委員会消防防災部会長
加藤 利一	石油化学工業協会
石村 雅士	電気事業連合会工務部副部長
山内 芳彦	日本産業機械工業会
川口 和昭	日本産業機械工業会